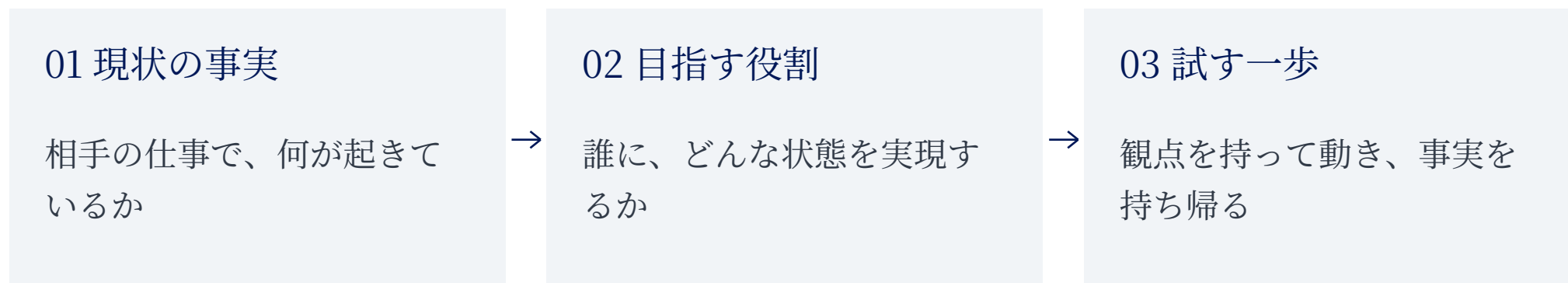


学ぶ問いを、自分の仕事からつくる

No.047 2021年10月1日発表 / 2026年10月23日改訂

日常の仕事で、何を確かめ、どこを変えるかを整理する提案です。

確認を進めるための整理（当社提案）



計画の体裁だけで判断せず、試した行動と結果を確かめる。

利用する場面・本人の条件・必要な支援に合わせて確かめます。

同じ場面を、何から確かめるか

No.047 2021年10月1日発表 / 2026年10月23日改訂

使い方を示す架空の例

商談件数の計画はあるが、行動が曖昧

見直す前の条件

誰の、何を確かめる商談かが定まっていない

次に確かめること

一つの取引先で確認し、提案を変える

候補者と一つの取引先を選び、その取引先が先に解決したい問題を確認する機会をつくります。確認できた事実で提案と次の行動をどう変えたかを見ます。事実が得られない場合は、質問の仕方や接点、必要な同席支援を見直します。

次の一件で使う、四つの確認

No.047 2021年10月1日発表 / 2026年10月23日改訂

1 今の事実と、自分の解釈を分けて確かめたか

確認済み / 要確認 / 相談する

2 次に担う役割と、実現したい状態を共有したか

確認済み / 要確認 / 相談する

3 本人が試せる行動と、必要な支援を決めたか

確認済み / 要確認 / 相談する

4 満足・理解・実践・成果を、分けて確認したか

確認済み / 要確認 / 相談する

説明できる範囲と、確認が必要なこと

No.047 2021年10月1日発表 / 2026年10月23日改訂

本資料は、当時の発表を現在の説明へ改めた当社の実践提案です。個別手法の成果や、全員に共通する成長順序を実証した資料ではありません。仕事の条件と本人の希望に合わせて確かめます。

学生の目標や課題を扱い、いつ・どの状況で何をするかを決めることと実行との関係を調べた研究です。相関研究と実験を区別する必要がある、必要な知識・技能がない場合まで有効とはしていません。当社の育成プログラムや成果倍率を直接検証したものではありません。

参照した一次資料

Gollwitzer & Brandstätter (1997) Implementation Intentions and Effective Goal Pursuit

https://sparq.stanford.edu/sites/g/files/sbiybj19021/files/media/file/gollwitzer_brandstatter_1997_-_implementation_intentions_effective_goal_pursuit.pdf

今回改めたことと、資料の使い方

No.047 2021年10月1日発表 / 2026年10月23日改訂

表題・本文の「歩留まりが4倍」「4分の1」等の数値を、検証条件を確認できない一般的な効果として掲げることをやめました。他の研修や事後アンケートの一律の否定を改め、旧画像を差し替え、改訂資料を添えました。

発表当時の記録を保持し、改訂内容と日付を示します。本資料の例や確認項目は、個別の条件に合わせて使うための提案です。

現在の公開資料と使い方の案内

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000343.000068315.html>

お問い合わせ：リクエスト株式会社

request@requestgroup.jp

<https://requestgroup.jp/request>